

Support

<http://www.city.niigata.lg.jp/kosodate/gakko/index.html>

NO. 3

令和3年6月10日

編集・発行

学校支援課 広報担当

「いじめ重大事態の絶無のために」

児童生徒が金品に重大な被害を被る、身体に重大な傷害を負う、精神性の疾患を発症する、相当期間(年間30日)学校を欠席する、児童生徒が自殺を企図するなど、学校では「重大事態」が起こることがあります。そのような重大事態が起きないようにするために、私たちができることを考えてみたいと思います。

〈いじめ程度表〉



高レベル

法第28条第1項に掲げる重大事態

- 校内いじめ対応ミーティング(詳細・経過)資料8-2に記入
市教委への電話連絡(速報)・報告様式15の3にて報告
- 児童生徒が自殺を企図
 - 身体に重大な傷害を負う
 - 金品に重大な被害を被る
 - 精神性の疾患を発症した
 - 相当の期間(年間30日を目安)学校を欠席

重大事態につながるおそれのあるレベル

- 校内いじめ対応ミーティング(詳細・経過)資料8-2に記入
市教委への電話連絡(速報)・報告様式15の3にて報告
- 登校できない状況が1日でもあったとき
 - 解消が図られているように見えても、いじめが繰り返されている
 - 社会的な影響が大きく、児童生徒・保護者の状況が深刻
(自殺念慮、遊離児童、差別的な発言、性非行(スボンあるしを含む)、集団からのいじめ、保護者が不満を訴える など)

発生後1週間を超えても解消に至らないレベル

- 校内いじめ対応ミーティング(詳細・経過)資料8-2に記入
市教委への電話連絡(速報)・報告様式15の3にて報告
- 被害者の気持ちが不安定
 - 加害者の行動変容が見られない

中レベル

- 校内いじめ対応ミーティング(メモ用紙)資料8-1のみの利用
1週間を超えずに一定の解消が図られたレベル
- 被害者・加害者の気持ちがまだ不安定。

低レベル

- 校内いじめ対応ミーティング(メモ用紙)資料8-1のみの利用
その日のうちに、すでに一定の解消がされたと判断できるレベル
- 被害者・加害者ともに、事案後普通通りに接している。

重大事態を起こさないために

- ① 認知のエラーをしない
- ② 校内でのいじめ程度表の周知(右図参照)
- ③ 管理職への確実な報告
- ④ 校内いじめ対応ミーティングの開催
- ⑤ 組織対応
- ⑥ 教職員の情報共有
- ⑦ アンケート様式・即日ダブルチェック
- ⑧ 事実確認・加害の内省
- ⑨ 丁寧な保護者説明

早期発見・早期対応のために



「市独自アンケート」の実施自体が児童生徒の知識・理解につながり、未然防止に効果があると捉えています。各校の丁寧な取組に感謝申し上げます。

近年、いじめの初期対応段階で、学校と保護者との間に捉え方のズレがあるケースが見られます。その大きな要因は「事案の受け止め」です。学校の受け止めが十分でないと、学校と保護者との間で食い違いが大きくなってしまいうことに繋がります。

被害、加害、傍観者、観衆からの丁寧な事実と情動の聴き取りと加害の内省、そして、保護者へ迅速で適切な説明を行い、いじめ問題の解決に向かいましょう。その際は、「いじめ初期対応ガイドブック」を確実に活用してください。また、「高レベルのいじめ」や問題解決に困難が予測されるときは、すぐに学校支援課へご報告ください。今後も、重大事態の絶無を目指し、各校の確実な取組をお願いします。

これからの不登校支援

これまで目指してきたこと

未然防止

初期対応

課題解決

学校復帰への支援

「さらに！」という考え方で

「登校する」という結果のみを目標としない

社会的自立への支援

場合によっては、

様々な関係機関等を活用し社会的自立への支援を行う。フリースクールなどの民間施設等と積極的に連携し、相互に協力・補完することの意義は大きい。

これまでの不登校支援としての、「未然防止」、「学校復帰のための支援」はもちろん大切ですが…。

新潟市フリースクール等連携協議会(R2.11発足)

フリースクール等と学校、教育関係機関との連携を図りながら、不登校児童生徒の社会的自立を支援する目的で設置されました。施設の新規加盟について協議したり、よりよい連携の在り方について協議したりします。

「新潟市教育ビジョン第4期実施計画」指標について

これまでの指標「不登校発生率」から変更！

1 初期対応の成果としての指標

「不登校傾向児童生徒の解消率」

$$\text{解消率 (\%)} = \frac{(\text{不登校傾向が解消した児童生徒数})}{(\text{不登校傾向児童生徒数})} \times 100$$

欠席日数はわずかでも、登校しぶりなどの心配が見られる子どもをいち早く見付け、支援していただいています。さらに、中には丁寧かつ継続的な支援から、「解消」となった子どもたちもいます。そこで、初期対応の成果としての指標としました。

2 課題解決的支援の成果としての指標

「不登校児童生徒のうち学校内外の機関から相談・指導等を受けた割合」

$$\text{相談・指導等を受けた割合 (\%)} = \frac{(\text{相談・指導等を受けた不登校児童生徒数})}{(\text{不登校児童生徒数})} \times 100$$

スクールカウンセラー、教育相談センター、訪問相談員、フリースクール等、外部とのかかわりを作ることが、社会的自立に向かう力を伸ばします。そこで、課題解決的支援の成果としての指標としました。

児童生徒理解・教育支援シートの活用

シートの活用により、途切れのない支援につなげます。

目標の設定においては、以下の6つの視点から考えてみます。それぞれの視点で子どもが「得意とすること」「好きなこと」「できていること」をもとに、「短期目標」と「役割分担」を決定します。

視点は、①「学習保障」、②「学校復帰行動の拡大」、③「活動空間の拡大」、④「学校職員との関係性拡大」、⑤「友人関係の拡大」、⑥「不安軽減」の6つです。優先順位を付け、「まず、何からやっていくのか」「それは誰がやっていくのか」を明確にして、より多くの職員で組織的に対応していくことが大切です。

